

- 1 派遣期日 平成28年9月22日(木)
- 2 研修先 学校名 筑波大学附属小学校
所在地 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
<http://www.elementaru-s.tsukuba/ac.jp/>

3 研修内容

研究主題：児童一人一人の意欲が高まり、興味・関心をもち続けられるような魅力ある授業づくり ～音楽科のICT機器の活用を通して～

- (1) 近年におけるICT機器の活用について 筑波大学付属小学校 山本良和 先生
最近の学校現場では、タブレット等のICT機器の導入が推し進められている。また、デジタル教科書を始めとしたICTコンテンツを活用した授業実践も増えてきた。通常の授業においてもICT機器の活用が着実に広がっている。

しかし、やはり今でも学校現場には戸惑いがある。教室に備えられた電子黒板や大型液晶テレビ、タブレットを使うことを前提として授業を設計するため、その使いばかりに目が行き、何のために使うのかということが曖昧になっている。そもそも各教科・領域の授業は、それぞれの教科・領域固有の目標を達成するために行われている。ICTはそのための手段として有効な場面で扱われるべきものである。大事なことは、ICTを授業のどのような場面でどのように活用すれば効果が上がるのかを明らかにすることである。

- (2) 音楽科におけるICT活用の現状 筑波大学付属小学校 平野次郎 先生

音楽を指導する担任の先生方は、「音楽の授業準備まで時間が充てられない」という声が多い。音楽専科の先生であればまだしも、複数教科を教えている先生方にとっては、「音楽の授業か…」となっているのである。指導している先生方は音楽科を軽視しているのではない。やはり時間がないのである。また、「こんなことをしてみたい」という想いはあるが、それを気軽に活用できるような端末やソフトの普及がなされていないのである。例えば、iPadは導入されているが自由にアプリが入れられない。市で購入した端末以外の授業での活用は認められないなど、行政面からの規制も影響している。このままでは、いつまで経っても音楽の授業は変わらない。

以前から、「音楽科こそICT機器の導入を積極的に進めるべきである」と述べている。そして、小学校段階では「教師のためのICT機器活用」である。「子供が一人一台持って…」というスタイルはまだ先だと感じている。その前に、教師が積極的に活用し、自分の技術を補うことで、行く先は、子供の音楽の力を育てることにつながるのである。

- (3) 公開授業参観

○第3学年・音楽科指導者 平野次郎 先生

○授業テーマ ①「音楽をつくる場面」での思考を促すためのICT活用の方法を探る。
②教師がICT機器を活用することでの授業のスタイルや子供の表現の変化を探る。

○題材名 問いかけたり、答えたりして演奏する『聖者の行進』

○本時の内容について

今回は器楽+音楽づくりの活動を計画した。主旋律の確認を終えた後に、楽曲全体を見通しながら、パート1に答えたい部分を考えていく。考えていく過程では、音情報だけでなく、楽譜情報も伝えていきたい。これは、共有化をはかるためである。音はどうしても消えてしまう。しかし、見える楽譜を掲示することで、一人一人の考えを共有することができる。

1人ずつ即興的に考えながら、自分で1パートに答える2パートを表現していく。ICTのくり返しの効果を生かしながら、伴奏のリズムからのアプローチも考えている。子供が何もない状態から表現するよりも、リズムや和音から影響を受けることで、多様な表現が生まれる。どのような2パートが表現されるか注目したい。

○本時の ICT 活用について

使用する機器やアプリ	使用場面	ICT の効果	プラスに働くこと
Anytune Pro ⁺	リコーダー活動	加工，くり返し	何度も練習できる（時短） 技能差に応じた指導
iMovie	リコーダー練習	視覚化，一体化	音情報，楽譜情報を得ながら 表現できる
GarageBand	器楽＋音楽づくり	加工，くり返し	試行錯誤できる ピアノ技能を補う
Bluetooth レシーバー	本時の全ての場面	共有化（無線化）	子供に寄り添った指導

- 本時の目標
- ・様々な発想をもち，即興的に表現しようとしている。
 - ・リズムや間，使う音などを考えながら，即興的に表現することができる。

○展開

学習活動	◇教師の働きかけ ◆ICT 活用
〈常時活動〉 ・リコーダー練習 ① まねっこ遊び②『レッツゴーソーレ』 シの音よくなったね。 レの音もっと息弱くていいよ。 〈本活動〉 ・『聖者の行進』の1パートを数回練習する。 ・1パートに答えたくなる部分を考える。 ここのリズムすごくよくなった。 のばさなくなったね。 ・提示された条件の音で，冒頭の2パートを即興的に表現する。 ・二人組になり，交互に2パートを表現する。	◆Bluetooth 経由も再生（全時で） ◆AnytunePro⁺で速度の変化やくりかえし再生を行う。 ◆iMovie でまねっこ遊びの楽譜と音源を提示する。 ◇指の使い方や口の加え方を指導する。 ◇自分のパートをよく聴くように伝える。 ◆2パートが入っていない音源を活用する。 ◆楽譜を提示し，楽譜情報からの共有化も行う。 ◇手拍子で表現するなど，段階的な指導を行うようにする。 ◆GarageBand 作成音源を使用し，くり返し活動できるようにする。 ◇何を考えて表現したのかを言語化する場面を設ける。 ◆◇ペアに合わせて速度を調節できるようにしておく。

○授業者 平野先生より

専門ではない先生でも，音楽の授業で ICT 機器を使うと，子供の表現が豊かになる。

- ① ピアノ（オルガン）を弾かなければならないかというと，必ずしもそういうわけではない。確かに先生が魂を込めて弾くほど，子供も魂を込めて，元気に歌う。しかし，ピアノ（オルガン）を弾くと子供のことが見られなくなってしまうことがある。ICT 機器を使うと，音やリズムを流している間に子供の近くに行って声をかけることができる。先生の手が空くことで，子供に関われるようになる。
- ② 音楽科での ICT 機器の活用のよさは，子供の能力に合わせて活用できるということである。例えば，声変わりの時期の低い声の子供に合わせて，キーを低くしたり，音の速さについてこられない子にリズムを遅くしたりすることができる。（一対一対応で）
- ③ 子供がやってみたいと思う題材を選ぶことができる。矢印の上にハートが出て，リズムに合わせて光っていくもの等がある。できないと嫌，できたら楽しいというものを扱える。

4 感想

平野先生の授業では，子供たち一人一人が前のめりになって授業を聞き，先生が出した課題を何としてでもクリアしようと必死になってついていき，先生に応えようとしていた。最後には，子供たち全員が今日の音楽も楽しかったという充実した表情で音楽室を出ていった。子供たちが意欲をもって取り組み，最後まで興味・関心をもち続けているとても魅力的な授業であった。それは，ICT 機器を使っているからという理由だけではなく，先生が1時間の授業の中で，子供たち一人一人に対してかける言葉が非常に多かったからであると思う。子供たちの中に何をしても先生が何か返してくれる，何か声をかけてくれるという想いがあったり，先生や周りの子供たちから認められていると感じていたりするからだと思う。私は，平野先生の授業に感銘を受けた。ICT 機器があってもなくても，今自分の置かれている環境でできることを考え1時間の授業の中で子供たちにたくさん声をかけていこうと思った。学級全員が音楽の授業を心待ちにし，大好きになるような，魅力的な授業をつくっていきたい。